

アマモ場造成技術開発調査*

抄 録

諏訪 剛・向野 幹生

目 的

和歌山県沿岸におけるアマモ場の分布状況およびアマモの遺伝的多様性を把握し、アマモ場の保全および再生事業のための基礎的情報を得る。

なお、本事業は（独）水産総合研究センターが水産庁の委託事業として実施したものを再委託で受けたもので、詳細については「アマモ類の遺伝的多様性の解析調査 平成 16 年度報告書」（平成 17 年 3 月 東北区水産研究所）に報告されている。

方 法

白浜町見草、串本町高富、那智勝浦町浦神、同町宇久井のアマモ場で 30～35 株のアマモを採集し、遺伝子分析サンプルとして供した。また、各アマモ場にて藻場の状況を箱眼鏡、スキューバ潜水などにより調査し、その分布を DGPS（古野電気、GP-37）にて記録した。

さらに、小型飛行機をチャーターして和歌山市加太～田辺湾までのアマモ場を上空から調査した。

結 果

アマモ場の面積は、白浜町見草が約 3.4ha、串本町高富が約 2.6ha、那智勝浦町浦神が約 8.4ha、同町宇久井が約 1.0ha であった。

航空機調査では比井湾の津久野と小浦でアマモ場を確認し、写真撮影した。

*生物多様性に配慮したアマモ場造成技術開発調査事業費による。